

## 女性とその家族のためのこころとからだの相談室

医師に相談するほどでもないが、自分では解決できない問題を持つ女性や、専門家にゆっくり時間をとって相談したい女性およびその家族を対象として、こころとからだの両面から総合的に相談に応じています。

### 診療体制

産科分娩部勤務の助産師が担当している「ママ・ベビー相談」と、保健師、助産師、看護師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士の資格を持つ医学部保健学科の教員が担当する「相談室」の2本立てで相談を行っています。

### 対象疾患

女性の心理的諸問題、更年期障害、月経異常、妊娠・不妊、母乳・育児、子供の療育、リンパ浮腫に対するセルフケア、睡眠問題、中高年者の健康増進などに関する相談が対象です。

### 診療、研究実績

#### 相談内容および担当職

- ①心理的諸問題  
臨床心理士が抑うつ症状、引きこもり・不登校、摂食障害などの悩み相談を受けています。
- ②身体的諸問題  
更年期の女性ホルモンの乱れ症状、思春期・青年期女性の月経異常、性に関する相談を受けています。
- ③妊娠・不妊問題  
助産師が妊娠中により快適な生活を送るためのアドバイスなどを行っています。
- ④疾患問題  
看護師・保健師が手術後、慢性静脈不全などによるリンパ性浮腫に対するセルフケアを指導しています。
- ⑤子どもの発達相談  
理学・作業療法士が脳性麻痺など運動発達の障害や学習障害などをもつ子供を対象とした相談を受けています。
- ⑥睡眠・住環境相談  
保健師がより健康な睡眠をとるため、快適な生活を送るための住環境などの相談を受けています。
- ⑦中高年の健康増進  
理学療法士が中高年者の体力づくり、身体機能に障害がある方への運動・リハビリ指導をしています。



## エビデンスに基づく高度な新生児医療を提供

京都の新生児の基幹病院として、重症児を中心に高度な医療を提供。エビデンスに基づく適格な医療をモットーに、超低出生体重児の後遺症なき生存の診療成績は大規模な総合周産期センターの成績に匹敵します。

### 診療体制

2010年にNICU9床・GCU12床へと増床し、約10名の新生児専属医師と約30名の看護師(助産師を含む)が、分娩部をはじめとする院内関連科と緊密に連携して24時間体制で診療にあたっています。

### 対象疾患

低出生体重児(超低出生体重児などを含む)、仮死・感染症などの周産期の異常による病態、外科疾患(横隔膜ヘルニア・消化管閉鎖症など)、心臓外科疾患(先天性心疾患など)など他科との連携を要する疾患が対象です。

### 診療、研究実績

#### 一般的な診療についての実績

年間入院数は150～200名。約30名を超低出生体重児が占めており、その救命率は95%を超えています。母体搬送後の出生児を含めると院内出生が80%以上を占めますが、外科疾患・心臓外科疾患の新生児搬送も広く受け入れています。

#### 高度医療の取り組み・研究

- ①新生児内分泌研究  
京都大学NICUは日本の新生児内分泌学の中心に位置し、常に臨床に直結する新たな情報を発信すべく、甲状腺・副腎皮質・ストレス応答などに着目した研究を行っています。
- ②発達研究  
京都大学教育学部・同志社大学赤ちゃん学科などと連携し、NICUの医療環境がもたらす発達への影響・早産児の発達過程などについて研究しています。

